

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名（ 久居高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	学校生活の充実と確かな進路保障を通じて、生徒・保護者・地域から信頼され、魅力ある学校づくりを推進する。	
(2)	育みたい 児童生徒像	○基本的な生活習慣・規範意識を身につけ、何事にも意欲的、誠実に取り組む創造性豊かな生徒。 ○日々の授業を大切に、家庭学習等を通じて、学力の定着と向上に取り組む生徒。 ○積極的に部活動に参加し、技術の向上と役割を担うことにより、責任感と協調性のある生徒。
	ありたい 教職員像	○率先して教育活動に取り組む意欲と活力のある教職員集団。 ○さらに充実した授業・「わかる授業」を実践するために、公開授業や教科内・校内での改善活動を積極的に推進する教職員集団。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>【生徒】 充実した授業を受けたい。活発なクラブ活動をしたい。進路希望を実現したい。</p> <p>【保護者】 安全・安心の学校生活。卒業後の進路保障。モラルの向上。社会人として自立できる力を育ててほしい。</p> <p>【地域】 公共心とマナーの育成。地域の普通科高校として信頼できる教育を推進してもらいたい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>【保護者】 毅然とした生活指導を行いながらも、子どもの心に配慮した教育を行なって欲しい。</p> <p>【中学校】 学校の様子、卒業生の近況報告、入試情報などを知らせて欲しい。</p> <p>【地域】 交通マナー、公共の場でのマナーを守らせて欲しい。</p>	<p>【保護者】 本校教育方針への理解と協力。家庭でのしつけと指導の強化。</p> <p>【中学校】 連携を密にとりながら信頼関係を構築していきたい。</p> <p>【地域】 本校の教育活動を理解し、協力してもらいたい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○将来の進路選択の際に自分を見つめ直す中で、悩みや揺れる思いを抱く生徒も多い。就職か進学か、方向転換を考える生徒へのフォローを手厚くお願いしたい。</p> <p>○就職セミナー等の中で、面接や作文練習、言葉遣い、マナー等について指導していただけるのはありがたい。</p> <p>○アルバイトの条件を緩和し、社会体験の中で学ぶ機会を増やしてはどうか。</p> <p>○学力面で近隣の他校に引けを取らない指導をお願いしたい。</p> <p>○推薦での大学進学への実績について、もっと中学校等に情報発信してはどうか。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○明確な目標や目的意識を持って日々の学校生活をおくる姿勢、主体的に自己の進路を選択し、決定できる能力や確かな勤労観・職業観を身につけ、たくましく自立していける生徒を育てる。そのために進路別モデルコースの内容を充実させるとともに、三年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育を展開する。</p> <p>○基本的な生活習慣の確立のため、遅刻の防止、交通安全指導、服装指導、清掃指導に今後も継続して取り組むとともに、「あいさつの久居、清掃の久居」と言われるような学校づくりを推進しながら、社会生活を営む上で必要な基本的な生活習慣・規範意識を定着させ、自主自律の気風あふれる生徒集団を育成する。</p> <p>○生徒の学力の定着・伸長、言語能力の向上、学習習慣の確立等に留意し、さらに生徒のニーズに的確に対応できる単位制・コース制の充実を通じて、地域からより信頼される久居高校をめざす。そうした魅力ある学校づくりを通して、安定した志願者数の確保に繋げていく。</p>

学校 運営等	<p>○情報管理、自然災害、事故、いじめ等に教職員が常に危機管理、人権教育の視点を持って教育活動を展開し、様々な事象に対応できるように保護者、地域及び関係機関と連携しながら、さらなる安全・安心な学校づくりをめざしていく。また、教職員が心身の健康を維持し意欲を持って教育活動を継続する観点から、時間外労働時間を削減し、総勤務時間の縮減を図る。</p> <p>○運動部や文化部において、「部活動ガイドライン」に沿って、すべての部員が目標実現のため活発に活動できる環境づくりを目指す。技術的指導ができる教職員の確保に努め、久居高校の特色としてさらなる活性化を図る。</p>
-----------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○スポーツ科学コース、部活動を振興し、その成果を継承・発展させる。</p> <p>○チャレンジコースを含めた普通科全体の教育活動をいっそう充実させる。</p> <p>○学習習慣の定着を通じて学力を向上させる。</p> <p>○生徒の進路希望実現に向けて進路指導の内容・体制を充実させ、進路実績の向上を目指す。</p> <p>○規範意識・生活習慣の定着・向上に重点を置いた生徒指導を進める。</p>
学校運営等	<p>○部活動指導の工夫・改善、「部活動ガイドライン」への対応</p> <p>○新学習指導要領、高大接続改革への対応</p> <p>○教職員の授業力をはじめとする力量向上に取り組む。</p> <p>○授業参観、教科会の活用を通じて授業の工夫・改善に取り組む。</p> <p>○広報活動の体制と内容を改善・充実させる。</p> <p>○教職員の総勤務時間を縮減し、働きやすい環境づくりを推進する。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教務	<p><学習指導の充実></p> <p>(1) 1年生に対して教科ガイダンスを実施し、学習意欲の喚起を促す。</p> <p>(2) キャリアデザインを意識させる科目選択のモデルコースを提示するとともに、多様な力をつけさせるための教育課程の改善を行う。</p> <p>(3) 生徒の学力や学習状況を把握し、進路実現につながる基礎学力の定着を図り、学習指導の研究を行う。</p> <p>【成果指標】 年度末の学校改善調査で、「学校の授業時間以外での勉強時間(1日当たり)」の平均値を40.0分以上(H29は35.3分、H28は35.2分、H27は37.5分)</p>	<p>(1) 4/13に学校長より訓話、各教科から学習説明を行った。有意義な取り組みだと考える。</p> <p>(2) モデルコースの提示と教育活動の改善について、カリキュラム委員会を中心に随時行った。</p> <p>(3) 進路指導部主導の基礎学力テストと学習サポートに携わったが、家庭学習や学習指導の改善には課題があると感じた。家庭学習時間は33.78分だった。</p>	
総務	<p><人権学習の充実></p>	<p>○人権学習は、概ね計画通りに実施</p>	

	<p>(1) LHR 等で取り組む人権学習を実施する。</p> <p>(2) 教員研修（現職教育）を実施する。</p> <p>(3) 年に一回、人権講演会を実施する。</p> <p>(4) 久居高校人権教育推進協議会を設置し、地域との連携を深める。</p> <p>【活動指標】 人権 LHR の指導案を検討・改善する。</p> <p><国際交流活動の充実></p> <p>姉妹校（オーストラリア・ギラウイン高校）からの留学生の受け入れと同校への本校生徒の派遣を通してお互いの交流を深めるとともに、展示・発表や報告会等を通して、多くの生徒に国際交流の意義を伝える。</p> <p>【活動指標】 留学生の受け入れと派遣の実施</p> <p>【成果指標】 展示・発表や報告会の実施</p>	<p>出来たが、差別事象の発生があり、取組を通して本校の課題も明確になってきたと考えられる。</p> <p>○留学生受け入れについては、ホスト生徒だけでなく、HR・授業・クラブなど様々な場面で協力を得て、交流を深めることができた。派遣を希望する生徒もわずかではあるが増えており、今後も継続して国際交流活動の発展に取り組んでいきたい。</p>	
生徒指導	<p><生徒指導の充実></p> <p>(1) 基本的な生活習慣・規範意識を身につけさせ、久居高校生としての自覚と自身を持った生徒を育成する。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣の確立のため、遅刻防止、服装髪指指導、清掃指指導に粘り強い取り組みを行う。</p> <p>(3) 登下校指指導を行い、被害者にも加害者にもならないよう交通安全・交通マナーの向上に努める。また、全校集会等の機会をとらえ、三不運動の意義の徹底を図る。</p> <p>(4) 日頃から挨拶ができ、また正しい言葉使いができる生徒の育成に努める。</p> <p>(5) 他者に対する思いやりの心、自分を大切に思う自尊感情をはぐくみ、かけがいのない自他の生命を大切にすることを生徒を育成する。</p> <p>【活動指標】 各学期始めと定期テスト終了後に頭髪服装指指導を行う。</p> <p>【成果指標】 各学年・保護者と連携・協力し、学校遅刻前年度比 3%減を目標として取り組む。</p>	<p>○全体的に落ち着いた雰囲気である。教員も授業とともに教室に入り授業規律も保たれている。</p> <p>○大半の生徒が朝の挨拶や入室時の挨拶がきちんとできている。</p> <p>○生徒の交通安全・交通マナー・防犯意識等を啓発するために、外部の関係機関と連携した活動に積極的に参加した。</p> <p>○命を大切にすることを教育に関して全校生徒を対象とした講演会を行った。</p> <p>○遅刻数が昨年度と比べ 1 割以上の大幅な増加となってしまった。</p>	
進路指導	<p><キャリア教育></p> <p>(1) 社会で必要とされる基礎的・汎用的能力の育成を行う久居高校版キャリア教育プログラムを改善し実践する。</p> <p>(2) リーダーシップ教育を学校行事とリンクさせ、主体性と自己肯定感を育む。</p> <p>(3) 3 年間を見通した系統的な教育内容として、特に 1 学年では自己 PR、2 学年では志望動機をアウトプットできるようになることを目指し、3</p>	<p><キャリア教育></p> <p>(1) (2) (3) 昨年に引き続き、キャリア教育プログラムの改善と実践を行った。特にリーダーシップ教育を体育祭、文化祭とリンクさせ、主体性と自己肯定感を育むプログラムを作成し、自己 PR に活用した。また 2 学年対象に早期の志望動機作成講座を行い、3 年次</p>	

学年では1・2学年で培ったものをベースに、面接ノートによる面接練習を実施し、進路実現を目指す。

- (4) 進路実現に向け、意識向上を促すためにも適職・適学診断や大学見学などを実施する。
- (5) 進路別モデルコースの内容充実を図る。就職、公務員、看護は、放課後の就職セミナーをさらに充実させる。また公務員、看護に加え保育の新授業を立ち上げるにあたって関係機関との連携を密にしたカリキュラムを作成していく。
- (6) 2学年を中心にオープンキャンパスやジョブシャドウイング、インターンシップへの参加を促し、進路意識を向上させる。
- (7) 新たに指定校セミナーを実施し、早期から高い意識を醸成するとともに、合格後も入学に向けた学力を維持向上できるよう指導する。
- (8) 進路希望や受験方式に応じて、面接練習、文書添削の個別指導を実施する。

<学力向上>

- (1) 基礎力診断テスト、スタディサポートを導入し、GTZ（学習到達ゾーン）を活用することで基礎学力の向上を目指す。
- (2) 朝トレweek、サポートweekを設定し、授業外の学習時間を確保し、学習習慣の定着を図る。
- (3) GTZの概念を生徒が理解し、前向きに取り組むための説明会を実施する。
- (4) 学力向上委員会を中心に、GTZを用いた学力変化（個人・学年）を学習指導に応用するための方法および、学習習慣の定着のための方法を模索する。

<チャレンジコース>

- (1) 大学入学共通テストへの対応を検討する。
- (2) チャレンジ担任ミーティングを実施し、そこから出てきた意見をチャレンジ委員会で検討していくことで、チャレンジコースをサポートする体制作りを再構築する。
- (3) 学習手帳の指導を充実させる。

<学習研究部>

資格取得を重視した指導を行い、国公立大学を受験する生徒に対し、大学見学を促すなど意識向上の啓発を積極的に行っていく。

の進路実現へとつなげた。

(4) 8月にチャレンジコース1年生対象の大学見学を実施。県外の国公立大のオープンキャンパスに参加した。

(5) 看護・保育・公務員の新授業を立ち上げ、関係各所とプログラム作成を行った。

【看護】新授業に関して協力先の選定を行ない医療機関1、看護学校2校と提携した。月1回の課後セミナーを実施。面接、小論文指導を行った。

【公務員】放課後全20回、放課後セミナーを行った。土曜日、春休み、夏休みは外部の無料セミナーに参加し、学習意欲を促すことにつなげた。コース立ち上げにあたっては関係機関と連携し、模索しながらカリキュラムの作成にあたった。

【保育】高田短期大学、鈴鹿大学、ユマニテク短期大学と連携し、授業のプログラムを作成した。

(6) 2年生中心にオープンキャンパスへの参加を呼びかけた。また看護志望者においては、1日看護体験2年生10名、1年生4名が参加した。公務員に関してはオープンキャンパスや就職説明会に積極的に参加を促し全員が参加できた。

(7) 全7回のセミナーを実施した。

(8) 進学、就職ともに「面接ノート」を用いた指導の充実を図った。就職では、年間16回の就職セミナーを実施。セミナー生は学校推薦で35名が内定した。セミナーでは、挨拶や身だしなみの全体指導はもとより、面談、面接指導、文書添削等、個別にも丁寧な指導を行った。学校外での就職相談会（3回）にはセミナー生全員

		<p>を参加させた。秋以降は、外部講師を招いた労働法に関する講座、プレ入社式等、内定から入社までの期間を充実させるための指導を継続した。公務員では、面接練習、文書添削の個別指導は十分に行うことができた。</p> <p><学力向上></p> <p>(1) 1・2学年は3回、3学年は2回の基礎力診断テスト（7組はスタディサポート）を実施。</p> <p>(2) (1)の事前・事後指導として朝トレ week とサポート week を実施。7組はスタサポや模試の復習を適時組み込んだ。</p> <p>(3) 7月に1年生対象のGTZの説明会（講師ベネッセ担当者）を行った。</p> <p>(4) 基礎学力の定着を目指した授業のあり方を協議してきた。教科内で協議内容を共有してもらい、活かしてもらった。</p> <p><チャレンジコース></p> <p>(1) 1学年はe-portfolio対策として、1年間の活動履歴の書き留めを適時行った。7組は英検を1回全員受験とした。</p> <p>(2) チャレンジコースとしての統一した指導ができるよう、意見交換を定期的に行った。</p> <p>(3) 全国の優秀活用事例を担当に紹介し、指導の参考にしてもらった。</p> <p><学習研究部></p> <p>○英検・漢検受験をベースに、1・2年生には定期面談、3年生には受験指導を行い、進路実現のためのサポートを行った。</p>	
<p>部活動</p>	<p>部活動を通して、規範意識を向上させ、感受性豊かな生徒を育てる。生徒、保護者、教員の意見を集約し、部活動ガイドラインを作成する。</p> <p><運動部></p> <p>(1) 服装や挨拶など日常生活においても他の生徒の模範となる行動がとれる生徒を育てる。</p> <p>(2) 目標を達成するための姿勢を育て、勉学にも</p>	<p>○運動部・文化部ともに活発であり、充実した活動を行っている。</p> <p>○ボクシング・体操・陸上・レスリング部等が県代表として全国・東海大会に出場する。また県大会においても、2年連続でダンス部がベスト4に入賞している。</p>	

	<p>向上心をもって取り組むよう努める。</p> <p>(3) 日常の練習や各種大会を通じ、相手を尊重する心と愛校心を育てる。</p> <p><文化部></p> <p>(1) 日常の部活動を通して、部や部員個々の多様な能力や可能性を伸ばす。</p> <p>(2) 文化祭等校内での発表機会を通じ、互いの感性を磨き上げる。</p> <p>(3) 校外での発表や地域との交流を通じ、達成感を味わい感動を共有する。</p> <p>(4) 学習研究部の活動の定着に努める。</p>	<p>○各部とも結果を出すことだけにこだわった活動ではなく、クラブ活動を通しいかに成長をさせていくかに重点を置いた指導を行っている。</p>	
<p>1 学年</p>	<p><仲間づくり></p> <p>部活動・学校行事に積極的に参加し、仲間と協力していける生徒を育てる。キャリア教育プログラムのリーダーシップ教育等を通じて、コミュニケーション能力を向上させるとともに、生徒ひとり一人が自己肯定感を持って学校生活を送ることができるようにする。</p> <p><基本的生活習慣の確立></p> <p>時間を守る(遅刻防止)、ルール(校則等の規範)や人との約束を守る、人の話をきちんと聞くことができる生徒を育てる。HR・学年集会で呼びかける。</p> <p><進路意識の醸成></p> <p>(1) 自分の進路の方向性を決め、二年次にむけてのコース別科目選択登録を行う。進路指導部・教務部主催のガイダンス・講演会・行事を利用する。教員同士の情報交換および個人面談を密に行う。</p> <p>(2) 学習手帳の導入・記入指導を行い学習習慣の定着と確認を行う(1年チャレンジコース)。</p> <p>(3) GTZ分析結果をもとに、生徒個人・学年全体の学力の推移を確認し、各生徒の進路希望にむけ学力を向上する指導に活かしていく。</p>	<p><仲間づくり></p> <p>部活動には多くの生徒が入部し、日々努力している。今年度は東海インターハイに補助員として関わった生徒も多く、貴重な経験ができた。遠足や文化祭といった学校行事も班を作り、協力して楽しめていた。リーダーシップ教育も大いに効果的だった。しかし、周囲との人間関係で悩む生徒もやはり多い。</p> <p><基本的生活習慣の確立></p> <p>遅刻や携帯電話の違反がたいへん多く今後も家庭と連携して指導していく。素直に聞く姿勢はあるのだが実際の行動に結びついていない。</p> <p><進路意識の醸成></p> <p>○「なるには講座」や担任との面談から概ね現時点での進路にあった科目選択ができた。カリキュラムに類型があることで安易な選択にならないようになったと感じる。</p> <p>○ポートフォリオに対応するため「学びと成長の記録」を書かせ、自分の気づきを記録している。GTZの指標も生徒の意欲につながっており、「朝トレ」にも前向きに取り組めた。</p> <p>○新テストに対応するため、チャレンジコースでは英語検定に全員挑戦した。学習手帳も学習習慣の把握に役立っており、今後も継続して活用したい。</p>	

<p>2 学年</p>	<p><仲間づくり></p> <p>部活動・学校行事において中心的役割を担い、仲間とともに一つの目標に向かって協力していきける生徒を育てる。生徒ひとり一人が自己肯定感を持って学校生活を送ることができるようにする。</p> <p><基本的生活習慣の確立></p> <p>時間を守る(遅刻防止・1年次より遅刻数が増加しないようにする)、ルール(校則等の規範)を守る、人の話をきちんと聞くことができる生徒を育てる。HR・学年集会(毎集会開催時・学期に2回以上)で呼びかける。</p> <p><進路意識の醸成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の進路の目標を明確にし、3年次にむけての科目選択登録を行う。進路指導部・教務部主催のガイダンス・講演会・行事を利用する。個人面談を密に行う。夏季休業中に、オープンキャンパスへの参加(進学希望者一人1回以上)や職業の研究(就職希望者)を促す。 ・学習手帳の導入・記入指導を行い学習習慣の定着と確認を行う(2年チャレンジコース)。学年主任による確認年1回以上 ・チャレンジコース教科担当者会議を開催し、模試結果を共有し、現状の把握と学力の向上について話し合う場を持つ。(2年チャレンジコース。年2回以上開催) ・G T Z 分析結果をもとに、生徒個人・学年全体の学力の推移を確認し、各生徒の進路希望実現にむけ学力を向上する指導に活かしていく。 <p>【活動指標】D3生徒人数1年次より10%減</p> <p><修学旅行></p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体行動を通じてルールを守ることの大切さを学び、仲間の輪を広げる。 ・沖縄の自然・文化・歴史等について生徒が主体的に調べ学習を行うことができるようにする。 ・事前に平和学習を行い、生徒が実際に見学地を訪れ講話を聞く中で沖縄戦の悲惨さ・平和の大切さを学び取ることができるようにする。 	<p>○百人一首大会や社会人講話・ワークショップ等、クラスを越えた仲間づくりができる企画を実施した。</p> <p>○1~2学期の遅刻者数 29年235人→30年293人に増加。 集会・講演会等で人の話を集中して聞けない生徒がいる。</p> <p>○夏季休業中のOCへの参加をHRや保護者会で呼びかけた。報告用紙の提出率は各クラス10人前後にとどまった。</p> <p>○担任が毎日生徒一人ひとりの学習手帳記入を確認し、声かけを行った。学年主任による確認はできなかった。担当者会議は11月に実施。朝トレ・サポートウイークの取り組みにより、D3生徒4月36人→1月24人。サポートウイークについては集中して取り組むことができない生徒がいた。</p> <p>○台風による延泊という予想外の行程になったが、生徒は冷静に行動していた。班別の調べ学習、講話やDVD鑑賞など集中して取り組むことができた。旅行後の感想文からは平和のバトンを受け継ぐ決意が感じられた。</p>
-------------	--	--

<p>3 学年</p>	<p><自分を鍛える></p> <p>(1) 基本的な生活習慣の確立・・・挨拶の励行「おはよう」・「こんにちは」・「さようなら」・「ありがとう」。</p> <p>(2) 基礎学力の定着・・・定期考査時の試験勉強「おさらい」の習慣化</p> <p>(3) 人権意識の向上・・・友だち作りと自己肯定観の育成(目標の達成から自分に自信を持つ)</p> <p><希望進路の実現></p> <p>(1) 目標を掲げる・・・自己進路の担任への表明(個人面談)。</p> <p>(2) 継続して努力する・・・進路説明会・オープンキャンパスへの自主参加。合格後の進学先研究の継続。進路指導部主催の進学セミナー・就職セミナーの受講。(独習よりも人に教えを乞う姿勢の確立)</p> <p><高校生活の充実></p> <p>(1) HR・クラブ活動への積極的な参加・・・最上級生としてのクラブ運営にあたり、高校でのクラブ活動の総決算をする。クラスの各委員の活動を通して久居高校の生徒会活動を担う。</p> <p>(2) 体育祭・文化祭などの学校行事の充実・・・体育祭でのクラス対抗種目での取組。文化祭食品バザーの充実。</p> <p>(3) 良き伝統の継承</p>	<p>(1) 概ね実行できた。</p> <p>(2) 国語科の漢字テストに熱心に取り組んだ。</p> <p>(3) 日常の学校生活での言葉の乱れに気づいた。</p> <p>(1) 担任・生徒相まって面接練習を頑張った。</p> <p>(2) 進学セミナー・就職セミナーへの積極的な参加が見られた。</p> <p>(1) 2018 年度インターハイ出場者、ブロック大会出場者を輩出した。</p> <p>(2) 体育祭での 1 組の総合優勝。文化祭での各クラスの食品バザーでの頑張り。(赤字クラス無し)</p> <p>(3) 集会集合時間の時間厳守。5 分前集合はできなかったが、何とか全集会の集合時間を厳守できた。</p>
-------------	---	--

改善課題

【教務】

家庭学習や基礎学力の定着もだが、学習することの意義を生徒に理解させることが課題である。1 年生への教科ガイダンスだけでなく、各学年における学習に対する姿勢の働きかけや日々の授業での指導、課題等への取り組みを通じ、学年が上がるごとに成長が見られる指導体制を考えていく。

【総務】

人権学習は特設の LHR の時間だけでなく、授業や部活動など学校教育のすべての場面において行われることが必要であり、生徒自身が「自分事」として考えられるような学習方法の確立が課題となる。

【生徒指導】

今年度の遅刻数は、1 月末の時点ではあるが昨年度と比べ、2,3 年生は減少したが、1 年生が大幅な増加となり、総数では 10%以上の増加となった。様々な課題を抱え遅刻を繰り返す生徒も複数おり、学年と連携を密に行った指導を行っていききたい。大きな問題行動はなかったが、ルールに対し「これぐらいいいやん」という事を感じるケースが多くなったと思う。生徒の話に耳を傾け、丁寧な対応を行う事は重要であるが、ダメな事はダメであるという事を、全職員共通理解のもとで生徒指導を行っていききたい。生徒の問題行動も様々な要因からおこっており、職員だけでなく外部の関係機関、家庭とも連携をして対応していききたい。

【進路指導】

○総合学習を通じたキャリア教育の一環で進路実現のための自己 PR 講座、志望動機講座、面接ノートを用いた面接指導という 3 年間の系統的な流れを作ることができたが、今後は学年の総合学習担当者との連携を十分に図っていくことが課題である。

- 「なります講座」や「なるには講座」などの進路行事を実施する時期や内容などの精選が必要である。
- 朝トレと連携した基礎力診断テストの実施により GTZ の向上を実現できたが、今後、D3 生徒の指導とともに中間層、上位層へのアプローチを考えていく必要がある。
- 今年度のサポートウィークは勉強時間の確保だけにとどまったため、そのあり方や効果に様々な意見が出た。今後どのように下位層の生徒の基礎学力を向上させていくかを考える必要がある。
- 国公立大学の推薦指導の充実を図る必要がある。
- 看護については、1 年次からの看護職への意識を高めさせるため、外部講師による出前授業の導入など放課後セミナー改革を進める。

【1 学年】

何かにつけ、生徒の幼さに驚くことが多い。言動にも未成熟さを強く感じる。担任が中心に親身になって関わっているが人間関係に悩んでいる生徒は多く、保健室や教育相談室はもちろん、生指や図書、教科担当やクラブの先生など、たくさんの方にお世話になった。担任は保護者や中学校の先生などとも連携をとって支援をしている。生徒には一つ一つの経験を通して成長して欲しいと思う。一部ではあるが経済面・欠席連絡などで保護者の協力がなかなか得られないのにも苦労している。事務室の方々にもたくさんの応援をいただいた。また「新テスト」「ポートフォリオ」など未知のことが始まる学年でもあり、進路指導部にアドバイスをいただきながら手探りで準備をしている。今後も「チーム久居」で生徒たちの成長を応援していきたい。

【2 学年】

- 遅刻者数が増加しないよう、「基本的な生活習慣の確立は、進路希望の実現に直結する」と呼びかけたい。身だしなみも含めて、校則（ルール）を守ることの大切さを訴えていきたい。
- 集会・講演会等の場面で人の話を聞く態度を身につけるよう、その場その場で注意を促したい。
- 残り 2 回の基礎学力テストを中心に据え、進路希望を実現できるように学力を身につける。そのために、授業を大切にすよう、HR・集会で呼びかけていく。サポートウィークの取り組みについては、再考する必要がある。
- チャレンジコースの生徒の志望校研究・進路希望実現のための学力定着ができるよう、チャレンジ委員会で意見交換しつつ、今後も担当者会議を実施していきたい。4 月に新たな担当者で会議を持ちたい。

【3 学年】

- 3 年間を通じて家庭学習時間の習慣づけを目論んできたが、実力テスト等で結果を出せなかった。
- 1 年生から継続的に取り組んできた集合時間の厳守は概ね達成できた。しかし、集会においてメモを取る習慣をつけることは出来なかった。
- 進路保障については概ね達成した。年間、月間を通しての進路保障スケジュールについては、進路指導部との綿密な調整が必要であった。①指定校セミナー立案・実施における事前協議。②指定校推薦決定者の A0 受験。③進路決定以降の学習・学校生活指導。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教務	<p><資質向上の取組></p> <p>(1) 公開授業週間を年に 2 回実施するとともに、日頃から教員同士で気軽に授業を見せ合う雰囲気</p>	(1) 6 月と 11 月の 2 回、公開授業週間を実施したが、昨年度より見学数は少なかった。	

	<p>をつくり、授業研究につなげていく。</p> <p>(2) 教員間の授業参観による意見交換を活発にし、授業力を向上させ、教科会を通して目標をもって授業づくりを行う。</p> <p>(3) 小規模の授業研究ミーティングを行い、教科横断的に授業や教材研究について話し合う場を設け授業改善に向けた取り組みの足がかりを作る。</p> <p>【成果指標】年度末の学校改善調査で、「授業のすすめかた、授業のわかりやすさ」の満足、またはやや満足の割合をとともに75%以上（H29は73%と65%、H28は78%と71%）。</p>	<p>(2) カリキュラム委員会を通じ、授業見学と教科会での話し合いを呼びかけた。</p> <p>(3) 授業研究ミーティングを行うことはできなかったが、各教科において参観や授業改善、生徒の情報共有が行われている。調査は83%と77%だった。</p>	
<p>総務</p>	<p>(1) 生徒主体のオープンスクールの実施</p> <p>【活動指標】在校生の参加講座10講座・人数50人</p> <p>【成果指標】本校受験を希望すると回答した生徒が60%以上</p> <p>(2) 防災マニュアルを見直す</p> <p>【活動指標】危機管理マニュアルを作成する。</p> <p>【成果指標】防災学習、防災訓練の実施</p> <p>(3) 総勤務時間の縮減に向け、委員会を再編する。</p> <p>【活動指標】可能な限り統合を行う。構成委員を見直す。</p> <p>【成果指標】のべ構成委員数を削減する。</p> <p>(4) 行事の取り組みの精選を進める。</p> <p>【活動指標】行事検討委員会を開催する。</p> <p>【成果指標】次年度の行事計画を行う。</p> <p><魅力ある学校づくりの推進（安定した志願者数の確保）></p> <p>(1) 中学校訪問による情報発信</p> <p>【活動指標】関係各中学校を訪問 年3回以上 全職員最低1回訪問</p> <p>【成果指標】いわゆる12月進学希望調査で、募集定数以上の志願者数</p> <p><働きやすい職場づくり></p> <p>(1) 良好な職場環境</p> <p>【活動指標】挨拶・OJT・デスクネッツ等による情報共有、仕事分担</p> <p>【成果指標】職員満足度調査による「職場の雰囲気が良い」の回答30%以上、「みんなが協力しあう雰囲気がある」70%以上、「久居高校の職員として働くことに満足している」30%以上。</p>	<p>(1)活動指標:おおむね達成 成果指標:未達成(50.9%)</p> <p>(2)活動指標:一部達成 成果指標:達成</p> <p>(3)活動指標:一部達成 成果指標:ほぼ未達成</p> <p>(4) 活動及び成果指標:達成</p> <p>今年度3回開催 修学旅行先を北九州に変更した。</p> <p>(1) 中学校訪問による情報発信 活動指標・成果指標達成</p> <p><働きやすい職場づくり> 活動指標・成果指標とも未達成</p>	

	<p>(2)総勤務時間縮減に向けた取り組み</p> <p>【公立学校で統一して取り組む総勤務時間縮減項目】</p> <p>①定時退校日の設定 → 毎月最終月曜日とする。</p> <p>②部活動休養日の設定 → 土・日曜日のうち1日を休養日とする。 (大会等により設定できない場合は、事前に活動計画等により校長の承認を得るとともに、同一週の平日に休養日を設定するか、大会等の終了後にまとめて休養日を設定する。)</p> <p>③会議時間の短縮→ 久居高校会議スマートルールに則る。</p> <p>【総勤務時間縮減の久居高校の目標と進捗管理指標の目標値】</p> <p>① 進捗管理指標と目標値 → 1人あたりの月平均時間外労働時間 平成29年度比 10%削減 → 1人あたりの年間休暇取得日数 平成29年度比 0.5日/年増加</p> <p>② その他の目標 → 月 80 時間以上の時間外労働者の減少</p>		
進路指導	<p><カリキュラム・マネジメント></p> <p>新学習指導要領への対応、英語の四技能育成、新調査書、eポートフォリオへの対応などについて、各学年・分掌に働きかけて、研修会への参加を促すとともに協議を行う。</p> <p><GTZを用いた学力向上と学習習慣定着法の検討></p> <p>朝トレ week、サポート week の実施状況を振り返り、次年度の指導へつなげるためのミーティングを学力向上委員会を通じて実施する。また、教務と連携しGTZ分析とレベル別の学習指導方法の研究を行う。</p> <p><外部との連携></p> <p>生徒の進路実現に資するため、上級学校、企業、ハローワーク等外部組織との連絡・協力を密にする。</p>	<p><カリキュラムマネジメント></p> <p>研修会で得た情報を学年主任・担任・英語科担当者と共有しながら、対応を進めてきた。</p> <p><GTZ></p> <p>GTZ については夏に実施の説明会も奏功し、教員間に随分浸透してきた。サポート week の再考と one week trial のより充実した活用法等、学習指導法の充実のため引き続き検討を重ねていく。</p>	
図書	<p><図書館活動の活性化></p> <p>(1) 他の分掌や教科との連携を密にして、授業やホームルーム等での図書館活用を推進する。</p> <p>(2) 各種イベントを通じて、図書委員の活動を充実させるとともに、生徒の読書体験や読書量を増やしていく。</p>	<p>様々な取り組みを通じて、貸出冊数や来館者数の増加を達成することができた。</p>	
1 学年	<p><チームワークの向上・資質の向上></p> <p>(1) 定期的に学年会議を開催し、副担任も含め情報の共有に努める。</p> <p>(2) 関係各分掌との連携を密にし、教員間での共通理解</p>	<p><チームワークの向上・資質の向上></p> <p>さまざまな個性を持った生徒がいて、対応に配慮が必要だったため、</p>	

	<p>を深める。</p> <p>(3)GTZ結果分析会を学年担任団で実施 模試業者より講師を招き、生徒の学力・学習習慣・進路意識についての分析結果を共有する。生徒の実態を把握し、面談時の資料として活用する。</p> <p>(4)教員それぞれの強みや思いを、学年全体に生かせるように、忖度のない意見交換をしていく。</p> <p><保護者との連携> 電話連絡・家庭訪問を通じて連携を密にする。</p>	<p>朝の打ち合わせや担任会で情報共有を図った。しかし、副担任や学年以外の先生への連絡が不十分であった。学年会議などもっとすればよかったかもしれないが、時間確保が難しい。せめてデスクネッツを活用して、もう少し連絡を密にし、ご意見もいただけるようにしようと思う。</p> <p>頭髪服装検査、人権LHRのTT, 朝トレ・サポート学習などさまざまな場面で、担任・副担任の先生方で協力し合って、生徒の指導にあたることができた。</p>	
2 学年	<p><チームワークの向上・資質の向上></p> <p>(1) 定期的に学年会議を開催し（月1回・年10回以上）、副担任も含め情報の共有に努める。</p> <p>(2) 関係各分掌との連携を密にし、教員間での共通理解を深める。</p> <p>(3) GTZ 結果分析会を学年担任団で実施 ・模試業者より講師を招き、生徒の学力・学習習慣・進路意識についての分析結果を共有する。 生徒の実態を把握し、面談時の資料として活用する。</p> <p><保護者との連携> 電話連絡・家庭訪問を通じて連携を密にする。</p>	<p>学年会は11回開催。 授業態度に問題あるクラスの担当者会議を実施し情報交換した。</p> <p>基礎学力テストの結果を学年団・教科内で共有した。</p> <p>不登校生徒や配慮を必要とする生徒に対応するために、保護者への電話連絡・家庭訪問・地域・中学校と連携を行った。</p>	
3 学年	<p><オープンキャンパスでの各種役割分担> 年2回程度実施される本校の中学生向けオープンキャンパスへの積極的な関与。</p> <p><中学校訪問> 広報委員と会い携えて、中学校を訪問し、本校生徒の毎日の学校生活について中学校職員と懇談する。(年2回)</p>	<p>クラブ員を中心に受付業務や体験活動の補助にあたった。</p> <p>広報委員と2回、中学校訪問を行い、在校生の学校生活について、中学校教員と懇談した。</p>	

改善課題

【教務】

公開週間の有無に関わらず、授業を見せ合うことへの抵抗は少ないように感じるが、多忙感等から見学や授業研究につながっていないことがわかった。授業力向上の点でもだが、生徒の様子や学習態度を共有し、学校として生徒の学習をサポートし成長させていく方向性を考えることが課題である。

【総務】

- 生徒主体のオープンスクールの実施について： 8月は体育館が使用できないため、校外で学校説明会を行う。体験授業は実施できないが本校の特徴を周知できるような企画を実施する。
- 行事の取り組みの精選について： 職場全体の意見を反映しながら行事の精選を行う。
- 情報発信について： 7月調査は中学生にとってはまだ「夢」的部分が多く、12月調査はある程度現実を見据えた部分での「結果」ととらえられることができる。現実的であるが故の「移ろい易さ」がある。今回7月調査

では募集定数に満たなかったが、両調査で定数を超えてこそ、「魅力ある学校」と言える。HPの更新等さらに発信できる機会を増加し、以前とは違う本校の良さを伝えていきたい。

- 働きやすい環境づくりについて： オフサイトミーティング等職員全体が本音で話しあえる場の設定が必要と感じる。「個々の職員が各々の業務に精一杯で、垣根をとって風通しを良くすることによって発想も変化する」そのような場の必然性を感じる。

【生徒指導】

各部とも熱心に活動に取り組んでいるが、熱心なあまり遅くまで練習をする、休みが少なくなる傾向が以前からある。部活動ガイドラインを周知し、効率的・計画的にクラブ活動行っていく意識の啓発に努めていきたい。

【進路指導】

- 進路指導部内の学年担当と学年の総合学習担当との連携を密にして、指導を行う形をつくる。
- 3学年担任団と進路指導に関する共通の学習会の機会を設ける。
- 看護においては、生徒の進路実現のため、学年との連携をより密にし、そのための情報提供やアプローチの工夫を行う。

【図書】

図書館の活用という点においては、利用回数等の大幅な伸びには繋がらなかった。次年度は、図書館という学習の場の提供をさらに積極的に行い、図書館機能を拡充させていきたい。

【1学年】

さまざまな出来事が起こる中、指導が後手になってしまった部分があった。生徒たちの問題行動に対応しながらも、生活面・学習面それぞれにおいて先生たちでアイデアを出し合い、魅力ある取り組みをしかけていきたい。サポートウィーク、少人数の講座分け、補習など、学力の低い生徒、学習習慣のできていない生徒への指導に引き続き力を入れながらも、学習面で意欲のある生徒がより充実して勉強できる環境づくりにも更に努力していく。

【2学年】

- 副担任の先生には学年行事で大変お世話になった。常に各クラス・講座の授業の様子を共有し、問題解決に向けて学年団で考えていくことが必要だ。
- 家庭環境が厳しい・クラスになじめない等の理由から不登校となった生徒や人権学習の実施にあたって配慮を必要とする生徒に対して、今後も保護者・地域・中学校との連携を大切にしていきたい。
- 生徒による差別発言があった。人権担当教員・学年団で再発防止にむけての取り組みを行った。今後も引き続き人権の守られる久居高校となるよう、人権LHR時だけでなく日頃から自他の人権を守る意識を高める教育活動を進める。

【3学年】

- 中学生向けオープンキャンパス実施日の頃は、調査書作成、A0入試面接指導等と重なり煩雑を極めたが、それぞれの校内的役割分担は果たした。夏休み中の生徒の対応は、当該生徒の事前の電話連絡によるスケジュール調整がキーポイントであった。次年度以降も、この点は徹していただきたい。
- 3年生担任団は第1回目の中学校訪問には参加。2回目は当たらなかった。中学校の進路指導担当者との懇談で、当該校の生徒の様子について詳しく説明することは、本校への信頼にも繋がり、中高連携の点からも意味深いものだった。中学校への情報提供は、当該生徒の入学以来の学校生活の把握と、大まかな進路希望状況の把握という3年生の担任ゆえの難しい課題があるので次年度以降、再認識をお願いしたい。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者との連絡・連携を通じて、遅刻の減少、交通マナーの徹底に一層努める。 ○将来の進路を見据え、家庭学習時間の増加、学習習慣の定着を図る。 ○個人面談等を通じて、「いじめ」の予防・防止の取組を一層推進する。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○学びに向かう意欲と姿勢の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確保（ベル席、立ち歩き・私語の禁止） ・家庭学習の習慣付け ・遅刻の減少 ○学力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・GTZの学習評価への活用 ・D3サポート補習への全教員参加と補習内容の見直し ○ICT教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用と管理 ・プロジェクタ、マグネットスクリーンの活用 ○新たな学校設定科目（看護、保育、公務員）の開設 ○チャレンジコース <ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストへの対応 ・国公立大学合格者増 ○スポーツ科学コースの魅力化 <ul style="list-style-type: none"> ・入試制度の見直し（調査書加点方式、県外からの志願枠） ・H34全国高等学校体育学科・コース連絡協議会総会の本校開催準備 ・スポーツ科学コース推進委員会の活性化
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌・担任編成の見直し（定数減対応） <ul style="list-style-type: none"> ・分掌の再編成 ・複数担任制、一人二役制の検討 ○教科会の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観（教科内、校内、他校）、アクティブラーニング ・GTZ分析とレベル別の学習指導方法の研究 ○人権教育 <ul style="list-style-type: none"> ・LGBT（制服、体育更衣場所、生徒の呼び方等について検討） ・差別事象への対応 ・人権教育に関する職員研修の充実 ○生徒の情報共有の徹底（心身情報、問題行動、差別事象、生活背景等） <ul style="list-style-type: none"> ・パスワード付き共有フォルダの設置を検討 ○不祥事防止に向けた取組 ○年度末反省・改善に向けた取組 ○教職員が働きやすい環境づくり（働き方改革） <ul style="list-style-type: none"> ・産業医面接の実施範囲拡大（月100h～、平均80h～） ・部活動ガイドライン（運動部・文化部） ○機械警備 <ul style="list-style-type: none"> ・実施に向けた運用課題（戸締り等の役割分担等）の検討 ○体育館・武道場工事への対応、生徒用トイレの洋式化（4F）

